



2023年 8月 25日 担当 アノジ

BRICS、新たに 6 カ国 サウジ、イランなど参加

南アフリカで首脳会議を開催中のブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ

(BRICS) は 24 日、新たに 6 カ国がメンバーとして参加すると発表した。2024 年 1 月に正式なメンバーとなる。新興・途上国の声を代弁する場としての存在感を高める狙いがある。

議長国である南アのラマポーザ大統領が 24 日の共同記者会見で明らかにした。

加入を申請している国のうち、アルゼンチン、エジプト、エチオピア、イラン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦 (UAE) の 6 カ国を正式に招待する。BRICS の拡大は、2010 年に南アが加わって以来となる。

中国の習近平 (シー・ジンピン) 国家主席は「新興国と途上国の連帯、協力に向けた新たな章を書き上げるためともに努力しよう」と呼びかけた。BRICS の拡大はもともと「グローバルサウス」と呼ばれる新興・途上国をまとめて米国に対抗することを狙う中国が主導した経緯がある。

日米やオーストラリアとの協力枠組み「Quad（クアッド）」に加わるインドなど、対米、対欧州を巡る思惑には既存・新規いずれのメンバー間でも温度差があるが、先進国に対して国際社会で発言力を高めたい点で一致した。

インドのモディ首相は「加入を希望するほかの国についてもコンセンサスを築くよう努める」と述べ、メンバー国が今後、さらに拡大する可能性も示唆した。

日経新聞



2023年 8月 25日 担当 アノジ

エチレン生産稼働率 7月 76.5%

石油化学工業協会（東京・中央）は24日、化学製品の基礎原料であるエチレンの生産設備について、7月の稼働率が76.5%（速報ベース）だったと発表した。80%を2カ月連続で下回るのは、リーマン・ショック時の景気後退の影響を受けて以来約14年ぶり。世界景気の停滞で樹脂需要が振るわない。好不況の目安とされる稼働率90%も12カ月連続で下回っている。低い稼働率が続けば、化学各社の業績を押し下げる要因となる。7月単月の生産量は前年同月比15%減の41万1100トンだった。



2023年 8月 25日 担当 アノジ

8月の都区部物価 2.8%上昇 電気代下げで伸び縮小

総務省が25日発表した8月の東京都区部の消費者物価指数（中旬速報値、2020年=100）は、変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が105.3と前年同月比で2.8%上昇した。伸びは2カ月連続で縮んだ。電気・ガス代などエネルギー価格の低下が全体を押し下げた。

QUICKが事前にまとめた市場予測の中央値の2.8%と同じだった。前年同月と比べた伸びが2%台となるのは、2022年9月の2.8%上昇以来11カ月ぶりとなる。ただ上昇は24カ月連続で、日銀の物価目標である2%をなお上回る状況が続く。

都区部の中旬速報値は全国の数値の先行指標とされる。生鮮食品とエネルギーを除いた総合指数は4.0%上昇した。食品や日用品は高い伸びが続く。



2023年 8月 25日 担当 アノジ

7月印刷・情報用紙国内出荷、10.9%減で11カ月連続のマイナス

日本製紙連合会が発表した2023年7月の紙・板紙需給速報によると、紙・板紙の国内出荷は前年同月比7.4%減で11カ月連続のマイナスとなった。用途別では、グラフィック用紙が10.8%減で18カ月連続のマイナス、パッケージング用紙が6.3%減で10カ月連続のマイナスとなっている。

印刷・情報用紙の国内出荷は前年同月比10.9%減で11カ月連続のマイナス。その他の品種でも、新聞用紙が10.5%減で26カ月連続のマイナス、包装用紙が12.1%減で8カ月連続のマイナス、段ボール原紙が5.8%減で2カ月連続のマイナス、白板紙が4.1%減で2カ月連続のマイナス、衛生用紙が1.6%減で2カ月連続のマイナスと、すべての品種で減少となっている。

<単月>

(単位:千トン、%)

		生産		出荷計				在庫		(参考)輸入*			
		前年比	前年比	国内出荷	輸出	前月比増減	前年比	前年比					
									前年比	前年比			
7月	紙・板紙計	1,798	▲7.9	1,779	▲9.3	1,675	▲7.4	104	▲31.5	1,928	+20	75	▲4.9
	紙計	839	▲5.1	821	▲10.0	779	▲9.3	41	▲21.6	1,061	+18	55	+8.9
	新聞用紙	133	▲15.5	139	▲10.5	139	▲10.5			161	▲7	0	▲53.1
	印刷・情報用紙	446	▲2.2	424	▲11.7	403	▲10.9	20	▲24.3	610	+23	51	+11.1
	非塗工紙	115	▲8.1	113	▲13.7	108	▲13.4	5	▲21.5	200	+2	1	▲30.1
	塗工紙	240	+3.1	226	▲12.7	212	▲11.5	14	▲27.5	285	+14	12	+107.5
	情報用紙	92	▲7.1	86	▲5.8	84	▲5.9	2	▲0.2	126	+6	39	▲1.2
	包装用紙	61	▲13.9	60	▲14.7	49	▲12.1	11	▲24.2	95	+2	1	+8.4
	衛生用紙	146	+0.8	144	▲1.6	144	▲1.6	0	+37.5	100	+2	1	▲25.5
	板紙計	960	▲10.2	958	▲8.7	895	▲5.8	63	▲36.8	868	+2	20	▲28.8
	段ボール原紙	794	▲10.7	792	▲9.1	731	▲5.8	60	▲36.4	632	+3	2	▲73.6
	白板紙	107	▲8.6	110	▲5.7	108	▲4.1	2	▲47.1	144	▲3	18	▲17.8
	グラフィック用紙	579	▲5.6	563	▲11.4	543	▲10.8	20	▲24.3	771	+16	51	+10.8
	パッケージング用紙	1,073	▲10.2	1,071	▲9.2	988	▲6.3	84	▲33.2	1,057	+2	22	▲27.3

<累計>

(参考)	紙・板紙計	12,913	▲6.8	12,880	▲7.1	12,018	▲5.1	862	▲28.0	1,928	+20	421	▲14.2
	紙計	6,169	▲6.2	6,165	▲7.8	5,760	▲6.8	406	▲20.0	1,061	+18	298	▲11.9
	新聞用紙	1,005	▲8.9	995	▲8.9	995	▲8.9			161	▲7	1	+7.3
	印刷・情報用紙	3,288	▲5.6	3,319	▲7.9	3,061	▲6.4	259	▲23.3	610	+23	274	▲12.3
	非塗工紙	856	▲5.0	863	▲8.6	811	▲8.2	53	▲14.5	200	+2	5	▲54.0
	塗工紙	1,798	▲7.2	1,821	▲8.7	1,627	▲6.3	194	▲24.7	285	+14	55	▲23.1
	情報用紙	634	▲1.7	635	▲4.6	623	▲3.9	12	▲32.4	126	+6	214	▲7.1
	包装用紙	449	▲7.2	445	▲10.6	363	▲9.0	83	▲17.4	95	+2	5	▲5.8
	衛生用紙	1,058	▲2.4	1,034	▲3.5	1,033	▲3.6	1	+114.9	100	+2	10	▲9.6
	板紙計	6,744	▲7.3	6,715	▲6.5	6,258	▲3.6	456	▲33.8	868	+2	123	▲19.3
	段ボール原紙	5,548	▲7.6	5,527	▲6.6	5,092	▲3.4	434	▲32.9	632	+3	11	▲58.4
	白板紙	792	▲4.7	787	▲4.8	766	▲2.4	21	▲49.1	144	▲3	106	▲11.8
	グラフィック用紙	4,293	▲6.4	4,315	▲8.2	4,056	▲7.0	259	▲23.3	771	+16	275	▲12.3
	パッケージング用紙	7,561	▲7.5	7,531	▲7.0	6,929	▲4.2	602	▲29.9	1,057	+2	137	▲18.2

(注)1. 国内工場の生産高・出荷高・在庫高による。

2. 紙計は「その他の紙」、板紙計は「白板紙以外の紙器用板紙」、「その他の板紙」を含む。

3. 在庫の前月比増減は数量(千トン)表示。

4. 輸入*は6月



SAF 原料調達 (出光)

出光 SAF原料調達で協力 油脂ビジネスのLOPSと

出光興産は、油脂ビジネスを展開するLOPS (本社東京都千代田区・斎藤一樹社長) と、SAF (持続可能な航空燃料) の原料調達で連携する。2020年代後半までに、使

用済み食用油などのSAF原料の国内での安定した調達体制構築を目指す。

両社は原料調達の共同検討で基本合意書を締結した。出光の石油製品製造技術とLOP

Sの動植物油脂に関する知見、および両社のサプライチェーンを生かして国内で廃食用油などの調達、貯蔵・海陸輸送の最適化とコスト削減および安定調達の仕組みづくりを検討していく。

ベースではそこまでよくないだろう」と語る。

ジェット燃料油は1・1%減の39万2793

出光は日本政府や航空業界の脱炭素化の目標実現に向けて、年間50万総のSAF国内生産体制構築を目指している。

その他の油種は、灯油が14・1%増の41万9657総。前年を2カ月続けて上回り、30

年8月以来、1年10カ月ぶりに割り込んだ。2019年比では9・8%減だった。

千葉事業所ではエタノールからSAFを製造するATJ技術により、2026年度に供給開始を予定。2020年代後半には廃食用油などを水素化処理してSAFを製造するHEFA技術で、2号機

の展開も視野に入れている。

SAF原料は食用作物と競合が少ないかたちでの調達が課題で、さまざまな用途に油脂原料を供給し、廃食用油で50%以上のシェアをもつLOPSと連携し、原料確保の課題に挑む。